



第10回

# 神戸っ子賞

受賞者発表

月刊神戸っ子創刊30周年を記念して創設した「神戸っ子賞」。分野を問わず、永年の活動の蓄積によって、神戸文化の振興とイメージアップに功労のある方に賞を贈らせていただきます。〔授賞式は四月十日ホテルオークラ神戸にて〕

選考委員



新野 幸次郎  
（にいの こうじろう）

神戸都市問題研究所 所長

米花 楢  
小笠原 暁  
石阪 春生  
小泉 康夫



第29回

# ブルーメール賞

受賞者発表

創刊10周年を機に神戸の文化を推進するために文化賞「ブルーメール（青い海）賞」を創設いたしました。各部門別に選考会を開き左記の5名の方に賞をお贈りいたします。〔授賞式は四月十日ホテルオークラ神戸にて〕

選考委員

◆文学部門



由良 佐知子  
（ゆら さちこ）

（詩人）

伊勢田史郎  
安水 稔和  
鈴木 漠

**santica**

The New Heart of Kobe 神戸・三宮さんちか

神戸地下街株式会社

**UCC**

UCC上島珈琲株式会社

財団法人 井植記念会

**kansin**

関西西宮信用金庫

第10回神戸っ子賞

第29回ブルーメール賞

— 協賛企業 —  
（順不同）

◆音楽部門



林 裕  
はやし ゆたか

〈子エリスト〉

選考委員

小石 忠男  
響 敏也  
中西 弘則

◆美術部門



上村 亮太  
うえむら りょうた

〈美術家〉

選考委員

中島 徳博  
河崎 晃一  
岡田 弘

◆舞台芸術部門



上甲 裕久  
じょうこう ゆうひさ

〈舞踊家〉

選考委員

佐野 漣箕  
岡田 美代  
山本 忠勝

◆ファッション部門



(財)神戸ファッション協会  
（会長／田崎 俊作）

選考委員

藤本ハルミ  
鈴木 章子  
三好 栄三  
小泉美喜子

<p><b>万入軒</b> 株式会社 <b>ニシキ</b></p>	<p><b>今落パール株式会社</b></p>	<p><b>MIWA</b> SINCE 1888 三輪運輸工業株式会社</p>
<p><b>田崎真珠</b></p>	<p>人に、美しいもの。 <b>大月真珠</b></p>	<p><b>L/E</b> 株式会社 エルアイシー 建設不動産事業計画コンサルティング</p>

# 第10回 神戸っ子賞

震災復興としてのまちづくりに尽力

にいのこうじろう  
新野幸次郎に



行政や政界の会合には、なくてはならない“顔”だ  
(関西電力株式会社神戸支店エネルギー懇話会にて)

## 選考経過

■ 経済人では、財団法人神戸ファッション協会会長田崎俊作、神戸大学学長西塚泰美、前商工会議所会頭牧冬彦、株式会社パソナ社長南部靖之、株式会社ノーリツ会長太田敏郎、株式会社アシックス会長鬼塚喜八郎らの名前が挙がった。文化人では、全国的にも幅広い活動が続け、神戸の文化濃度を上げた作家田辺聖子、筒井康隆、棋聖谷川浩司、建築家安藤忠雄、洋画家西村功、石阪春生、元町画廊オーナー佐藤廉、兵庫県立近代美術館館長木村重信、書道家望月美佐、華道知香流家元成瀬香梅、音楽プロデューサー末広光夫、ヴァイオリニスト辻久子、ジャズミュージシャン鍋島直雅、ピッコロシアター館長山根淑子、劇団神戸代表夏目俊二、生田神社宮司加藤隆久、全国社会人ラグビー大会で優勝した神戸製鋼ゼネラルマネージャーで全日本代表の監督でもある平尾誠二の名前も。震災五年の節目を迎え、振り返ったときに、自身も被災しながら他の活動を犠牲にして神戸の街の震災復興に尽力した新野幸次郎への授賞が決まった。

〈文中敬称略〉



小泉康夫  
(月刊神戸っ子会長)



石阪春生さん  
(画家)



小笠原晩さん  
(宝塚まちづくり研究所  
理事長)



米花稔さん  
(神戸大学名誉教授)

■ 選考委員

## 推薦のことは

「神戸っ子賞」の選考にあたっては、多くの候補者が対象になり活発な選考が行われた。が、結局満場一致で新野幸次郎先生に受賞していただくことになった。新野先生は、終戦間もない昭和二十四年、神戸経済大学卒業と同時に文部教官として教職に就かれ、昭和二十七年神戸大学経済学部講師、昭和二十八年同学部助教授に、昭和三十一年に同学部教授となられ、昭和五十一年同学部学部長を歴任、昭和六十年二月に神戸大学学長に就任され、平成三年に退任、神戸大学名誉教授となられた。平成三年に財団法人神戸都市問題研究所所長に就任、その間、日本学術会議会員、大学審議会委員(文部省)、物価安定政策会議委員(経企庁)、中小企業安定審議会会長代理(通産省)、独

占禁止懇話会会員(公正取引委員会)など数多くの要職を歴任されてきた。時に神戸の街は空前の大震災に見舞われ、甚大な被害を被った。新野幸次郎先生は、阪神・淡路大震災復興記念事業検討委員会座長(国土庁)を、また都市再生戦略策定懇話会座長(兵庫県)など、震災復興のまとめ役として縦横の活躍をされてきた、公正・冷徹・果斷の人物で山積みする困難な問題に対処指導をされてこられた功績は計り知れないものがあると、選考委員として衆目の一致するところで、既に神戸市文化賞、兵庫県文化賞、神戸新聞平和賞など数々の栄誉を受けておられる先生に「神戸っ子賞」を受けていただくことになり嬉しいことです。

〈小泉康夫〉

## 歴代受賞者

1. 淀川長治/映画評論家
2. 朝比奈隆/指揮者
3. 陳舜臣/作家
4. 宮崎辰雄/前神戸市長
5. 中内 功/ダイエー会長兼社長
6. 中西 勝/画家
7. 東山魁夷/画家
8. 妹尾河童/舞台芸術家・エッセイスト
9. 高村 勲/コープこうべ名誉理事長顧問



# 神戸が生んだ 経済学の第一人者

にいのこうじろう  
**新野幸次郎**

〈財団法人神戸都市問題研究所所長〉



財団法人神戸都市問題研究所にて

撮影／米田英男

平成五年一月に発生した阪神・淡路大震災は、新野さんにとって、新たな挑戦の始まりとなった。

神戸大学長を退官後、「少し楽をしたい」と思っ、前・神戸市長の宮崎辰雄さんが設立した財団法人神戸都市問題研究所の所長に就任。その矢先の大震災である。

これまでの実績と手腕を買われて、国土庁の阪神・淡路大震災復興記念事業検討委員会座長、兵庫県的生活復興県民ネット代表など、神戸復興の第一線に立つて采配を振る立場となった。「私だけの力ではありません。多くの方々が動いてくださったお蔭です」と話す、この人あつての成果だ。

大震災から五年。一つの総括として千ページを超える報告書「阪神・淡路大震災 神戸復興誌」（神戸市編集・発行）も刊行された。

「これまでに行われた様々な検証を生かして、新しい復興のあり方を提示したい」と神戸復興へ、さらに意欲を見せる一方、「そろそろ自分の専門分野で仕事をまとめていきたい」とも。

経済学一筋の人である。

〈佐井〉

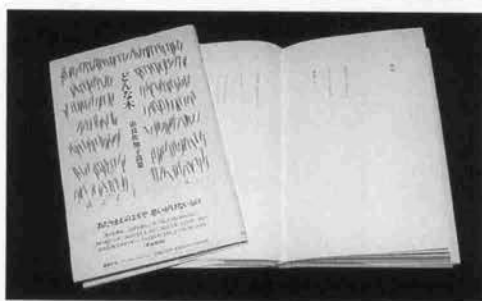


# 第29回 ブルーメール賞

<文学部門>

ありふれた日常を爽やかに表現

ゆ ら さ ち こ  
由良 佐知子に



『どんな木』由良佐知子詩集（編集工房ノア）

## 選考経過

今回の選考対象は現代詩。過去二年間に発表された作品の中より候補があげられた。富哲世の『天人五衰』、『震える』の玉井洋子、『馬になる』の川田あひる、『ふうわり』の杉本深由起、『落としたボール』の柴田実、『風祭』の佐伯圭子。さらには、震災直後から続いているボランティア活動から生まれた神田さよの『ハーフコートをはおつて』、雨をキーワードに良質であまやかな叙情を表現する梓野陽子の『海の位置』、『蜜柑』の井上潔子は筆力があり傑作の詩を含んでいると、審査員らも絞り込みに頭を悩ませた。

そういったなか最終的に由良佐知子の初詩集『どんな木』が、日常生活のなかから彼女自身の視点で見つける「あたりまえのよう」で、思いがけないものを爽やかに表現したとして、全員一致で決定した。

（文中敬称略）



鈴木 漠さん  
（詩人）



安水 稔和さん  
（詩人）



伊勢田 史郎さん  
（詩人）

選考委員

## 推薦のこゝば

水たまりに空が映っているのはありふれた風景だが、この詩人は溝をのぞいて長い空を見つめる。雲の上を歩く黒猫を見つめる。「気づかないまま／いい日である」と書く。

切られて今はない木の花の薫りをかぐ。もういない人の姿を見る。「たしかに匂っている」と書く。

蔓草だけが写っている写真を見て、風が写っているという。「風だけが写っている」と書く。

結婚間近い娘のまだ気づいていない美しさに目を奪われる。「やがて背中に園をあてる人がいて」。

研いだ米がゆつくりと水を吸う気配。漬けこまれる菜の花の小さな叫び声。

あたりまえのようについて思いがけないもの、次々と見つけ出して、見定めて、書く。書きながら言葉がのびる。心が育つ。

「虹」という詩についてこんなことを書いている。あの日の虹にはもう二度と出会うことはないけれど、言葉で写し取ると消えたあとともくつきりと見える。「消えた後でも零れ続けているものを見つけたくて、わたしは詩を書いているのかも知れない」

受賞詩集の題は『どんな木』。由良佐知子はどんな木なのか。歩く木、走る木、立ちどまる木。きりりと立つ木。よく通る声はつきりともを言う木。なによりも、楽しみな木。〈安水 稔和〉

## 歴代受賞者

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. 詩 / 中村 隆    | 15. 詩 / 武田信明    |
| 2. 小説 / 鄭 承博   | 16. 小説 / 山西史子   |
| 3. 俳句 / 小泉八重子  | 17. 詩 / たかとう匡子  |
| 4. 小説 / 福元早夫   | 18. 小説 / 森 栄枝   |
| 5. 詩 / 三宅 武    | 19. 詩 / 田中紀子    |
| 6. 小説 / 秋吉 好   | 20. 小説 / 夏巳ゆらこ  |
| 7. 詩 / 江頭越子    | 21. 詩 / 渡辺信雄    |
| 8. 小説 / 桜井利枝   | 22. 小説 / 吉田典子   |
| 9. 詩 / 梅村光明    | 23. 詩 / 村中秀雄    |
| 10. 小説 / 吉保知佐  | 24. 評論 / 大塚雅子   |
| 11. 詩 / 季村敏夫   | 25. 詩 / 増田まさみ   |
| 12. 小説 / 福岡勝利  | 26. 小説 / 野元 正   |
| 13. 詩 / 時里二郎   | 27. 詩 / 岩崎風子    |
| 14. 評論 / 松尾美恵子 | 28. エッセイ / 毛 丹青 |



あたりまえのようで  
思いがけないもの

由良佐知子  
〔詩人〕



垂水区 菜園で

撮影／米田英男

「詩を書くようになって、日常生活をばかにはしていけないってつくづく思いますね」。垂水区の自宅の近くにある菜園で、仲間と野菜づくりを始めたのもこの頃。畑に座り、趣味の木版画の下絵を描く。「見上げると、そこからはわずかな空しか見えないけど、人間の生活を左右する大きな存在」。生活人として、身近な自然に強く魅かれる。菜園の隅にひっそりと育つみかんの木。十か月ぶらさがって、やつと美しい実になる。マーマレードを作りながらひと感ずく。「みかんが抱いてきた時間／受けとめた光／鍋の中で煮詰まって／透き通っていく」。日常の波が打ち寄せたものを拾い集めて言葉にする。

「人が集まって何かするのが大好き」という由良さん。子育てをしながら、児童文学のグループで童話を書いたり、自宅を図書館として解放するなどさまざまな人とのつながりを作ってきた。二十代の頃に始めた詩は一旦やめていたが、その間、「読むことと書くことは一日も欠かさなかった」。

『どんな木』は、詩と再び向き合うようになって十年間の作品をまとめた。「振り返ればあまりに赤裸々で恥ずかしいことばかり。でも、そのときと同じ気持ちには二度となれないから、言葉に残しておくんです」。由良さんがこれから出会うのはどんな木だろう。

宇都宮

# BM 第29回 ブルーメール賞

<音楽部門>

チェロの魅力、歌の心を表現する

はやし ゆたか  
**林 裕**に



力強く優しくチェロを奏でる

## ■選考経過

昨年度の音楽界の活動を振り返り、多くの候補者の名前が挙がった。

定期演奏会など、神戸を中心に活動が続けているアンサンブル神戸の主宰でありフルートの素晴らしさを披露しているマリリンバの名倉誠人。年々歌唱力、演技力共に力をつけているバリトンの井原秀人。ジャズ界では世界的に活動が続いている小曾根真、タイガ―大越。神戸での定期的コンサートが予定されている長岡京室内アンサンブルは団結力と生みだす音の素晴らしさが高く評価された。地道に活動が続けているピアノリストの小堀由美子。意欲的な姿勢で挑戦するピアノリストの碓山典子。関西二期会で数々の舞台をこなしているソプラノの小西潤子など。

最終的にはこれまでの数々のリサイタルや留学経験などの集大成とも言える昨年のリサイタルの演奏が大きく評価され、チェリストの林裕に決定した。

〈文中敬称略〉

## ■選考委員



中西弘則さん  
(神戸新聞文化部音楽担当)



響 敏也さん  
(音楽評論家)



小石忠男さん  
(音楽評論家)

## 推薦のことば

たとえば聴く者の胸に染み入るような優しい音色。たとえば駆け行く天馬のごとき雄渾な力強さ。あるいは研ぎ澄ましたように光を放つ理知的な切れ味。そうして深々と語りかけてくる、温かく豊かな音の流れ。

チェロという楽器には、いずれにしても、人の心の、どこか深いところに届く不思議な魅力がある。

チェロの世界の若獅子、林裕さんは、そうしたチェロの魅力を、余すところなく備えて、明るい未来を予感させる大器だ。早くから注目を集め、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席奏者として活躍、朝比奈隆指揮の定期演奏会でのドヴォルザークの協奏曲では、構えの大きな演奏で称賛された。その後、

海外での研鑽を経て独奏者としての活動に入っているが、しばらくぶりに聴いた昨年のリサイタルは、一回りも二回りも大きくなった演奏の姿に眼を見張った。何より、おらかな音の構築が美しく壮快なのだ。加えて、押す引く想いのままの表現力も雄弁。

大切なのは、今時の演奏家が忘れかけている呼吸感が、この人の演奏には確かにあること。人が生きる証としての深く豊かな息遣いがある。それが楽器を通して「歌の心」となるのだ。

神戸女学院大学での後進の指導も頼もしい。

二〇〇〇年の春に発表される「ブルーメール賞」に、きつと爽やかな春風をもたらす人だ。

〈響 敏也〉

## ■歴代受賞者

1. 田原富子/ピアノ
2. 矢野恵一郎/合唱指導
3. 上月倫子/バレエ
4. 今岡頌子/バレエ
5. 小石忠男/音楽評論
6. 中村茂隆/作曲
7. 関 晴子/ピアノ
8. 坂本 環/声楽
9. 山内鈴子/ピアノ
10. 松本幸三/声楽
11. 伊藤ルミ/ピアノ
12. 井上和世/声楽
13. 末広光夫/プロデュース
14. 安芸栄子/声楽
15. 延原武春/指揮
16. 中西 寛/作曲
17. 青井 彰/ピアノ
18. 広岡隆正/声楽
19. 戎 洋子/ピアノ
20. 大前 哲/作曲
21. 中野慶理/ピアノ
22. 田中修二/ピアノ
23. 岡本一郎/リユート
24. 畑 儀文/声楽
25. 釜淵祐子/声楽
26. [アート・エイド・新刊]/プロデュース
27. 鈴木雅明/指揮・チェンバロ
28. 北浦洋子/ヴァイオリン



# 全ての人の心に届けたい

林 はやし

裕 ゆたか

〈チェリスト〉



撮影／米田英男

自宅で

父親はチェリストの林良一。生まれた時から音楽という環境の中にいた。

東京芸術大学音楽学部器楽科を卒業後、一九九三年に大阪フィルハーモニー交響楽団に首席のチェリストとして迎えられた。同年第六十二回日本音楽コンクールで、チェロ部門の第一位と黒柳賞を同時に受賞。一九九八年にはドイツのフライブルグ音楽大学大学院を首席で修了。帰国後も数々のリサイタルや交響楽団との共演など着実な活動を続けてきた。現在は神戸女学院大学音楽部の講師として後進の指導にあたるなど、活躍の場は増えている。また、今年はパッハの没後二百五十年にあたり、無伴奏チェロ組曲、ガンバソナタ全曲演奏会を秋に開くなどこれからの活動にもますます意欲的だ。

楽器の大きさ、弦の振動幅、曲の中の位置づけなど、すべてにおいて中庸にあたるのがチェロ。「オーケストラ全体を支え、曲の構成全体を見ることができますね」。空間にチェロの音はとけやすいため、オーケストラで弾く時はかなり力を入れて弾く時もある。「顔には出しませんが（笑）。話し方や雰囲気なども中庸のおだやかさを持った人だ。「ホールが一番遠くで聴いている方に届くようにチェロに向かっています」。相手を意識した演奏は聴衆の心に伝わり、常に新しい感動を呼んでいる。

〈前田〉



# BM 第29回 ブルーメール賞

<美術部門>

ほとばしる生命力、若きエネルギーに期待

う え む ら り ょ う た  
上村亮太に



Drawing Series "Recollection" (46000×2700)

## 選考経過

二〇〇〇年、そして震災から五年ということもふまえ、若々しく、前向きに制作活動が続ける作家たちが候補に挙げられた。絵画ではチェコでの絵本原画展を成功させた中辻悦子や昨年度「川の絵画大賞展」での大賞ほか数々の賞を受賞し脂ののる花房晃、東京ステーションギャラリーの「現代日本絵画の展望展」に出展の上村亮太、善住芳枝、六甲アイランドでの個展を成功させた寺門孝之。また、雲丹亀利彦、「なまず」をモチーフにユニークさのある稲田峻、日本画と抽象画の両面で活躍しブルーシートを利用したテクニクも見事な熱田守、震災後の菅原市場を描くなど一般の人々に与えたイメージも大きい西田真人らの日本画陣も奮闘した。写真では小谷泰子、吉野晴朗、陶芸の重松あゆみはコンスタントな活躍ぶりが評価された。立体造形では東山嘉事、テキスタイルアートの密祐快、紙コップアーティストのLOCOOなど。

しかし最終的には上村亮太が、その作品から感じさせる激しい生命力、「六甲アイランド現代アート野外展」や「震災と美術」展でみせたような枠にとられない美術への情熱を評価された。



岡田 弘さん  
(元町画廊 社長)

河崎晃一さん  
(芦屋市立美術館 学芸課長)

中島徳博さん  
(兵庫県立近代美術館 学芸課長)

## 推薦のことは

上村亮太の作品に一貫するものは、そのパワーの強度と集中力であるように思われる。重量感のある色調と力強いタッチによって埋め尽くされた画面からは、生命力のほとばしりを感じることができよう。激しいタッチの積み重ねによって、一見抽象画のような観を呈する場合もあるが、基本的にこの作家の場合具象絵画である。しかし、彼の作品は、決して従来の絵画の枠に収まるタイプのものではない。壁面のみではなく、床面にも延長する作品の展示方法は、この作家が旧来のタブロ―主義者でないことを明確に物語っている。そして彼の作品のテーマは彼の生き方と密接に結びついている。

一九九六年、震災後最初の「六甲ア

イランド現代アート野外展」に出品した「伏流水」という作品は、彼のそうした特徴をよく示している。「普段は目に見えないけれども何かの機会に立ち現れてくるもの」―自然の中に存在する目に見えない大きな力―を表現しようとして、遊歩道のタイルを一部はぎ取ったものであった。現在、兵庫県立近代美術館で開催中の「震災と美術」展（三月二十日まで）にも、彼は同じタイトルで作品を出品している。震災当時、地割れが生じた美術館の庭の同じ場所に、モルタルの土管を配置して一部を破壊したものである。

「伏流水」―それは彼自身の中に存在する創造力のみことな比喻でもある。

〈中島徳博〉

## 歴代受賞者

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 彫刻/山口牧生   | 16. 平面/松原政裕  |
| 2. 造形/丸本 耕   | 17. 造形/楠松奎二  |
| 3. 洋画/小西保文   | 18. 彫刻/松本 薫  |
| 4. 版画/藤原向意   | 19. 造形/杉山知子  |
| 5. 平面/斎藤 智   | 20. 彫刻/田中 昇  |
| 6. 洋画/鄭 相和   | 21. 彫刻/坪田政彦  |
| 7. 洋画/山本文彦   | 22. 版画/木津文哉  |
| 8. 造形/堀尾 貞治  | 23. 版画/片山みやび |
| 9. 造形/櫻 忠    | 24. 彫刻/牛尾啓三  |
| 10. 版画/松谷武判  | 25. 絵画/中井浩史  |
| 11. 平面/木下佳通代 | 26. 絵画/奥田善己  |
| 12. 造形/宮崎豊治  | 27. 写真/赤崎みまし |
| 13. 平面/藤原志保  | 28. 造形/宮崎みよし |
| 14. 建築/武田則明  | 29. 造形/上前智祐  |
| 15. 平面/石川晴久  |              |

# 湧きあがる創造力を パワーに

うえむらりょうた  
**上村亮太**  
〈美術家〉



兵庫県立近代美術館で、作品と

撮影／米田英男

「めくりあがり沈み込んだ人工海岸、溢れ出て海に流れ去った泥水の痕跡」。震災直後の六甲アイランドマリナーパークで呆然と眺めた光景。翌年、上村さんが「現代アート野外展」に出品した『伏流水』は、それまでの表現方法とは全く異なる野外での制作。「偶然にも同じ場所で被災した自分にしか造れないもの」を模索した。

既に美しく整えられた人工海岸と、傷ついたままの生まれ育った街、あまりに対照的で「しゃくだった」。その下に、「依然として存在している大きな力」を表現することで、「思い出せ！」そんな思いも込めた。今年、「震災と美術」展に同名の作品を出品している。

絵画作品で見せる独特のタッチが、「抽象画こそ真の芸術だと信じていた」頃の上村さんを彷彿させる。現在のようには具象、造形と幅広い表現をもつようになったのは震災のあと。久しぶりに登った鴨子ヶ原の実家の裏山、山頂で見た花や木々の眩さに、憑かれたようにスケッチした。「楽しく描けばいい」。当たり前のことを忘れ、世間に認められない不満と、鬱屈した心で絵に向かっていた自分に気付いた。

今、「何にでも挑戦したい」と思えるようになった。表現の前では枠をもうち破るパワーをもつ。

〈宇都宮





# 第29回 ブルーメール賞

<舞台芸術部門>

創作バレエ「ミレニアム」で卓越した舞踊哲学の結晶を披露

じょうこうやすひさ

上甲裕久に



ダンスリサイタル「ミレニアム」

1999年12月4日神戸国際交流会館にて

## ■ 選考経過

「日舞」松本尚時は「辰巳の四季」「家紋傾城姿」に意欲をみせた。《能・狂言》笠田昭雄が「道成寺」を披いた。初心者のための解説つき「かぶつく能」等、吉井基晴が活躍。狂言善竹隆志には「蛭子大黒」の「歩行」に進歩を認めたい。《雅楽》酒井康博が行う「生田雅楽会」に期待。《宝塚》鶴岡大歩プロデュース「偶の惑星」はニューヨークで公演。劇団道化座は新「生きる」シリーズがスタート。劇団神戸は、「虹と落日」で伯方島での迫力の野外演劇を、元永定正が「舞台空間展」でユニークな舞台美術を披露。《洋舞》洋舞界はかつての神戸洋画界が日本をリードした頃の盛況に似てきた。創立四十五周年を迎えた貞松・浜田バレエ団は、公演のチケットが三日で完売、創作リサイタル作品「カルミナ・ブラーナ」も高く評価された。貞松正一郎は神戸市文化奨励賞、上村未香は県芸術奨励賞受賞。瀬島五月がイギリスへ、中田「史がミラノスカラ座へ、など他多数留学、江川バレエ団の佐藤由子はザクセン国立歌劇契約などで国際的。藤田佳代の構成振付の「あれから五年」空と海と山の間には、素人の高校生生の群舞と、日舞、洋舞、フラメンコの特出に雅楽まで入れた「震災芸術」、次回に期待。上甲裕久の創作バレエ「ミレニアム」は、生きる喜び、踊る喜び、命の人間賛美が宝石の如く散りばめられて明快、洗練された技巧の躍動感は見事、本年随一として今回の受賞となった。



山本忠勝さん  
〈神戸新聞 編集委員〉



岡田美代さん  
〈演出家〉



佐野連箕さん  
〈元神戸新聞  
取締役文化事業局長〉

## 推薦のことば

戦後、兵庫県下での最初の文化団体は、朝倉斯道氏のご指導による神戸洋画会（昭和二十三年）でした。その後、神戸洋画会での小磯良平、田村孝之介ほか阪神間に在住する洋画家達の活躍は日本の洋画壇をリードし、東京をしのぐ「一時期」がありました。創立四十八周年の県洋舞家協会の現在の活躍と芸術性は、かつての神戸洋画会の栄光の歴史に匹敵します。それは神戸洋画会発足以降、ずっと新聞記者として「文化」をみてきた私の迷いのない証言です。

そうしたなかでの創作バレエ「ミレニアム」は卓抜でした。上甲裕久さんは過去に「遣唐使」、「妖」、「地獄の門」等を発表されていますが、今度、五年

の沈黙を破って、ご自身も踊っての構成演出振付の「ミレニアム」は激震を体験した子供作文六編の朗読から始まりました。そこには人間の命の輝きが激しく、若々しく、明快な躍動美、威厳に満ちた技巧は圧観。音楽も胡弓三味線など入れ純度の高い詩情、成熟した余韻は見事でした。上甲さんの蓄積された舞踊哲学の結晶でした。私流に分析させてもらえば「強固で端正な演劇合理主義的計算術思想の結実」「永遠を瞬時に現わすことのできる鬼才の炎上」でした。骨髄にまで染みこんだバレエの王道を往く「鬼才」こそ、さらに壮大な「舞踊の謎」に挑戦し続けるでしょう。その期待と広い熱烈な声援は誠に「大」です。 〈佐野連箕〉

## ■ 歴代受賞者

1. 邦舞／花柳芳恵一子
2. 邦舞／若柳吉由二
3. 能楽／吉井順一
4. 邦舞／花柳芳五三郎
5. 邦舞／花柳吉叟
6. 邦舞／藤間緑寿郎
7. 邦舞／尾上菊見
8. 能楽／藤井徳三
9. 仮名手庵歌舞伎／海野光子
10. 演劇／コメディ・ド・フーゲツ
11. モダンダンス／加藤きよ子
12. 舞踏／藤田佳代
13. 邦舞／花柳五三輔
14. 映画／白羽弥仁
15. 邦舞／松本尚時
16. 笑劇／エイト社／楠本章章
17. フラメンコ／東伸一矩
18. 能楽／久田徹二
19. 邦楽／大和楽「蘭の会」
20. 貞松・浜田バレエ団
21. 邦舞／花柳芳次
22. 演劇／劇団四紀会
23. バレエ／貞松正一郎
24. 狂言／善竹忠一郎
25. 邦舞／花柳小三郎
26. 邦舞／若柳吉金吾
27. バレエ／太田由利
28. 狂言／善竹隆司・善竹隆平

# 「今」をつくりあげてゆく

じょうこう やすひさ  
上甲裕久

〈舞踊家〉



神戸国際交流会館メインホールにて

撮影／森田篤志

十四歳の時、友人にタップダンスを習おうと連れられて行った所がバレエスクールだった。

「それからはバレエにやみつきに、というよりやめるきっかけがなくてつい続いってしまったんです」。独立後は舞踊家、舞踊作家として、バレエ、演劇、オペラ等の振付を手掛け、異色作を発表し続けた。

阪神・淡路大震災の前年、一九九四年、オーギュスト・ロダン原作『地獄の門』でリサイタル。翌年一月、「まるで本当に地獄の門を叩いてしまったようだった」大震災。自身も被災した上甲さんは、それから五年の沈黙に入る。

「震災を自分のなかで検証したかったです。しかしそれは、取り組めばあまりに奥が深かった。悲しい、苦しい、その範囲にとどまってしまうたら、そればかりを表現しようとしたら、短絡的なものしかできません」

『ミレニアム』の舞台によって、「ずっととまてなかったボーダーラインを越えられた気がする」と上甲さんは話す。五年間の空間をまたぎ、鬼才・上甲裕久の新しい世紀が始まった。

「クラシック、モダン、ジャズ、ひとつのジャンルにとらわれず、柔軟な姿勢で、あらゆるボキャブラリーを駆使して『今』を表現したい」

〈鳥羽〉



# BM 第29回 ブルーメール賞 ＜ファッション部門＞

未来のクリエイターを育成する

## 財団法人神戸ファッション協会に



今年もKFCからパリ、ロンドン、ミラノへと  
新進デザイナーはばたく

### ■選考経過

神戸だけではなく、テレビや雑誌などメディアを問わず活動を続けているイラストレーター・寺門孝之。二十周年を迎えたファッションショーを開き、ますます個性を高めてきたK.F.M.。三回を迎え、まちづくりイベントとして定着しつつあるトアロードクラフトアートフェア。映画館とチャイニーズレストランの融合を試みたアレックス楊と梁建緯。タンスの中のルネッサンスをテーマにファッションショーを続ける藤井美智子。二十五周年を迎えたK.F.S.。そしてそのメンバーでもあり、労働大臣卓越技能章を受賞した田中謙司など多くの候補者の名前が挙げられた。

最終的には北野工房のまちの運営、国内だけではなく、パリ、ミラノでのK.D.C.の開催、神戸ファッションコンテストの開催、ピクニックの立ち上げなど数々の意欲的な未来に続く取り組みが大きく評価され、財団法人神戸ファッション協会の受賞が決定した。



小泉美喜子  
(本誌代表取締役主筆)



三好栄三さん  
(神戸ファッション  
美術館学芸部長)



鈴木章子さん  
(神戸ファッション専門  
学校校長)



藤本ハルミさん  
(デザイナー)

■選考委員

### 推薦のことば

神戸の新名所「北野工房のまち」の順調な運営、意表をつくテーマ(ウルトラマン)で多くの人を集めた産業振興イベント「神戸ハイカラミュージアムⅢ」、神戸から東京、福岡、さらにミラノ、パリへと進出したK.D.C.(神戸デザイナーズコンボーズ)、ピクニック(ファッション都市人材育成推進懇話会)における人材・産業育成事業の具現化、コンセプトの重視と海外に留学生を送り、人材育成を中心とするプロジェクトへと大きく変貌をとげた「神戸ファッションコンテスト」…。昨年度、(財)神戸ファッション協会は実りある多くの事業を成し遂げた。しかし、今回の評価は、事業の実績ではなく、苦吟しながら模索しつつある新たな方向性にある。

な方向性にある。

それはイベント中心主義(これは、神戸が「ポートピア博」以降引きずってきたハードの構築とイベントを中心とするイメージ戦略の基本的方向性そのものであるといっている)からの脱却と、長期的な展望に立つ産業・人材育成のためのシステムの設立、既成のハードの利用と有能な人材のネットワーク化といった遠くて困難な事業への大きな方向転換である。

だが、それが今まさに実現されつつあるというわけでもない。それは始まったばかりであり青い(未成熟である)。だからこそ、この賞を…その可能性と苦悶にこそ、この賞を贈ろう。

三好栄三

### ■歴代受賞者

1. デザイナー/藤本ハルミ
2. 神戸市身障害者福祉センター/米田博司
3. ニットデザイナー/市野木悦子
4. コウベジュニアターラズ/K.L.T.C
5. アートフラワー/太田タマコ
6. コウベファッションソサエティ/K.F.S.
7. パール/「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具/神戸市家具青年会
9. コウベファッションモデリスト/K.F.M.
10. 書道家/望月美佐
11. コウベファッションクリエイターズ/K.F.C.
12. ジャーナリスト/村上和子
13. デザイナー/中村一夫
14. 柴田グループ代表/柴田音吉
15. デザイナー/丹野最世子
16. デザイナー/大西節子
17. 旗の作家/福井恵子
18. メガネ/服部メガネ店
19. アートフラワーデザイナー/佐藤悦枝
20. ホテルゴーフルリッツファッションライブラリー館長/山本芳樹
21. 百貨店/大丸神戸店
22. 神戸市立総合プロデューサー/今岡寛和

# グッドなオンリーワンの展開を

財団法人神戸ファッション協会  
**田崎俊作**  
〈同協会会長〉



写真提供／田崎真珠株式会社

昭和四十八年のファッション都市宣言以来、神戸は行政・経済・市民が一体となってファッション都市づくりに取り組んできた。そして平成四年に財団法人神戸ファッション協会が設立された。

現在、同協会が大きく注目されているのは一過性のイベント開催ではなく、今後が続いていく事業活動の展開にある。

平成十年度にファッション都市人材育成推進懇話会（PYNICK）が立ちあげられ、ファッションクリエイターの育成ネットワークの構築、ファッション関連施設の内容強化や連携強化、そしてクリエイターの集まる街づくりを目的として活動は続いている。

KDC（神戸デザイナーコンボーズ）では国内外新進デザイナーの飛躍の場を生み、神戸ファッションコンテストでは海外の五校に留学生を送り込むことを契機に、業務交流提携を結び、一方、留学校を卒業した新進のデザイナーをKDCに招聘するなど、ネットワークは海外にも着実に広がっている。

「神戸らしい『小さくともきらりと光る、グッドなオンリーワンの展開』に取り組んでいきたい」との田崎俊作会長のことは、二十一世紀に輝く神戸の街が浮かんできた。

〈前田〉



# 2頭のパンダが神戸にやってくる!

王子動物園に



王子動物園 ジャイアントパンダ舎

ジャイアントパンダ  
サイサイ (雄、ZHAIZHAI) オス

4月下旬、神戸市に中国から雌雄2頭のジャイアントパンダがやってきました。

阪神・淡路大震災で、傷ついた市民の心をいやし、復興の糧にと、かねてから中国側と話し合っていたものです。日本でのパンダの長期飼育は、上野、白浜に次いで3か所目となります。今後、10年間、日中共同で飼育繁殖研究を行うことになっています。

2頭を迎える市立王子動物園では、パンダ舎の建設が順調に

進んでいます。

来神に先立ち、3月18日から4月11日まで、特別展「パンダが神戸にやってくる!」を開催します。内容は、昭和56年のポートピア'81で飼育展示した「サイサイ」、「ロンロン」の写真や当時パンダが遊んだボールなども展示する予定です。

また、今度来神する2頭のパンダの愛称を募集する予定です。一般公開は、6月ごろからになりそうです。かわいいパンダを見に、同園に足を運んでみてはいかがでしょうか。

問い合わせ：神戸市立王子動物園 (TEL 078-861-5624)



SAMOTO CLINIC

佐本  
産科

## ママといっしょに



あかちゃん：小谷理紗 ちゃん

(平成11年8月6日生まれ)

パパ：英進 さん

ママ：尚美 さん

「優しくて、人の気持ちの分かる子供に…」

### ★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)

市バス上沢4 停南スグ

●駐車場完備●

ある集い

# 社団法人神戸青年会議所

## 21世紀0年 ゼロから一新

一新たな神戸の創生一



四十歳までの「若い力」が結集する青年経営者の組織、社団法人神戸青年会議所（JCC）は、今年で創立四十二周年になる。「変革の能動者たらんとする青年として、個人の、真に豊かな生活の実現を通して、自立した、快適で活力ある地域を創造し、自由と公正を保障する国家を基盤として、世界の平和と繁栄に貢献し、地球上すべての人と、共に生きることを誓う」と自らの使命をその宣言に誇り高く唱えている。

また、その綱領には、「われわれJayceeは、社会的・国家的・国際的な責任を自覚し、志を同じうする者相集い力を合わせ、青年としての英知と勇氣と情熱をもって、明るい豊かな社会を築き上げよう」と青年らしい息吹がふれている。

二〇〇〇年一月七日、新年祈禱のため生田神社に、理事長以下主要メンバーが集まった。JCCは単年度制なので、基本理念やテーマは、その年の理事長が提唱する。

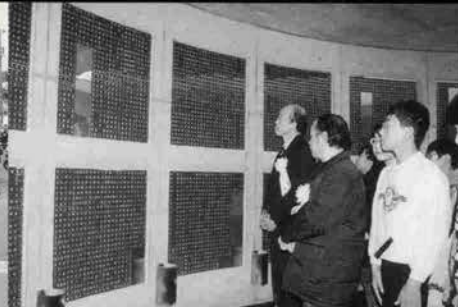
本年度理事長の寺本督氏が提唱した基本方針は「二十一世紀〇年 ゼロから一新—新たな神戸の創生—」である。これには西暦二〇〇〇年を二十一世紀の〇年・スタートと捉え、文字通りゼロからの出発をできる年と考え、新しい神戸を創生することを目指すという思いがこめられている。

神戸の未来は、新たなスタートをきった彼らの双肩にかかっている。

（編集部）

一列目左から戎正晴、前田修、遠藤純民、寺本督、村川勝、中山広隆、船木靖夫  
二列目左から石元孝浩、宮本宜尚、土屋雅昭、三條慶弥、奥井秀樹、瀧川高章、須浪道広  
三列目左から植田正己、橋本寛、中田義成、臼井英之、王裕良、寺崎浩幸、中野友史、作治広幸  
四列目左から二本貴司、千葉悠晃、西嶋宏行、米田篤、内平徳勇、西尾光、上村修司  
五列目左から藤原崇晴、古田実、木下勝文、坂井幸嗣、山根邦裕、竹部博範





# 震災から5年目 1・17 メモリアル

↑慰霊と復興のモニュメント、東遊園地に  
1月16日東遊園地で、慰霊と復興のモニュメントの除幕式が行  
われた。子供たちが描いた、2354枚のハンカチをつなぎあわせ  
た幕が降ろされると、横田信吾  
氏の「COSMIC ELEMEN  
TS」が姿を見せた

→↓「1・17 KOBEに灯りを」  
5時46分に東遊園地の新しく  
完成した慰霊と復興のモニ  
ュメントに、横浜から灯りが  
運ばれた。写真右はスタッ  
フの中島正義さん



←自分の足で確かめた1・17  
第2回こうべウォークが1  
月16日に催された。長田の  
大公園から三宮の東遊園地ま  
での約10kmの道のりを歩きな  
がら、復興する町の姿を多く  
の参加者が自分たちの目で確  
かめた。後半、小雨が降るあ  
いにくの天候ではあったが、  
150人を超える県内の中学、  
高校、大学生のボランティア  
たちの元気な声に参加者を元  
気づけていた



## K O B E コウベスナップ S N A P



←生田神社震災復興記  
念之碑が完成  
生田神社が「生田神社震災  
復興記念之碑」を生田の池  
畔に完成。1月12日除幕式  
が取り行われ、「生田神社  
阪神大震災復興の記録」も  
出版された



→1・17を表現する  
兵庫県立近代美術館で「震  
災と美術—1・17から生ま  
れたもの—」展が開幕。絵  
画・彫刻・映像などあらゆる  
ジャンルにおける震災の  
表現が一堂に。写真下は米  
田定蔵・英男カメラマン  
「都市の記憶を記録する」  
(3/20まで)



←神戸JC2000年の新春互礼会  
神戸青年会議所の新年互礼会が1月29日の夜、世山神  
戸市長を迎え、神戸ポートピアホテルにおいて開かれ  
た。新理事長寺本智氏が2000年の年頭所感を表明







↑今年こそ優勝を！

1月28日、生田神社へ、仰木監督ひきいるオリックス・ブルーウェーブ一行が、新春ミレニアム2000年の必勝祈願に参拝。ガンバレオリックス！



↑ミレニアム、ファッションフェア

1月23日神戸文化短期大学服飾学科と、神戸ファッション専門学校の「2000ファッションフェア」が、神戸ファッションアート・イオホールで開かれた。特にデザインコンテストの入賞レベルは高く、多元文化主義のショーも若々しく最高！写真下は左から水野正夫氏、鈴木校長、オルガソーラ先生



←「竹久夢二・宵待草の恋」

12月29日～1月18日にかけて、大丸ミュージアムで「竹久夢二展」が開かれ、中右コレクションが初公開。また1月8日には神戸新聞松方ホールで中右瑛氏の講演会が行われ、関西マンドリン合奏団による懐かしい大正歌曲の演奏が雰囲気盛り上げた

## K O B E コウベスナップ S N A P



←「新年恭賀」南京町春節祭  
2月4日、5日、6日南京町春節祭が華やかに。日本初公演の歌仔戲「中国オペラ」も好評で3日間で37万人の出入。写真は開演式で釜山市長、東亜会上根会長、祝賀の獅子舞



←70周年MOFメダルをプレゼント  
パリのサンディカル・オートクチュール校のオルガソーラ先生が、K・F・M会長の藤本ハルミさんに、権威あるMOFの70周年のメダルをプレゼント。1月29日甲陽園の柿本邸で。写真右は歓迎会



↓一雙御流神戸所創立75周年

1月23日、嵯峨御流神戸所75周年の記念祝賀会「いけばなの2000年の集い」が神戸ポートピアホテルで盛大に開かれた。写真右は吉田泰巳神戸所長親子



←兵庫県柔道接骨師会新年会  
1月9日、兵庫県柔道接骨師会が同会館にて新年会を。上田勉会長を囲んで





ふじもと・かずひろ

1937年兵庫県佐用郡生まれ。58年に兵庫県立農林講習所を卒業後、兵庫県に入庁。総務部財政課参事、総務課長、財政課長、職員長、総務部次長、知事公室長、理事、出納長を経て、99年に副知事に就任。

## ■ひょうごビューマンインタビュー

藤本和弘副知事を訪ねて

共に話し合い、考えながら  
県民の立場にたった行政を

二〇〇〇年を迎え、さまざまな分野で新しい変革の波が訪れています。兵庫県では行政に関しても、今までとは違う発想で、より広く県民の意見を反映できる改革を進めています。今回は兵庫県副知事の藤本和弘さんに「自身のお話を交えながら、二十一世紀を迎える兵庫県のこれからについて語っていただきました。」

### ●花博で世界にアピール

——いよいよ淡路花博「ジャパンフロ

ーラ2000」の開幕ですね。

淡路花博「ジャパンフローラ2000」は明石海峡大橋で神戸と結ばれた淡路島を舞台に、三月十八日から半年間、世界中から千七百種類百五十万本の花を集めて開催される国際園芸・造園博覧会です。関西国際空港の建設用土砂が採取された跡地を、最新の緑化技術によって自然を回復させ会場にしました。マルチメディア技術を駆使して熱帯雨林を再現する「緑と都市（まち）の館」や、日本未公開の中国雲南省の秘花を展示した「奇跡の星の植物館（夢舞台温室）」での多彩な展示のほか、四・五メートル区画の花壇が百個集まった「百段苑」や「国際庭園」といった世界の花々でつくる数々のお花畑など見どころがいっぱいです。前売り入場券も多くの方々に求めいただき、また知事出演のCOMASHALも話題になるなど、皆さんが心待ちにされていることを大変うれしく感じています。豊かな自然環境の象徴である花と緑を通じ、人と自然のコミュニケーションのあり方について考える良い機会となるとともに、阪神・淡路大震災の後、兵庫県はこんなに

頑張っていますというところを世界中の人々に見ていただくためにも、ぜひとも成功させなければいけないと考えております。

## ●必要なところに必要な制度を

―開幕が待ち遠しいですね。ところでご出身は、美しい自然や多彩な伝統文化の息づく西播磨と伺ったのですが。

佐用郡三日月町です。大型放射光施設「Spring-8」で有名な播磨科学公園都市からもっと山深く入ったところですが(笑い)。兵庫県には昭和三十五年に入庁いたしました。長く県の財政の仕事に携わることができ、いろいろな経験をさせていただきました。昭和四十七年の老人医療保険制度制定時には、当時財政課長の貝原知事と一緒に取り組みましたが、その制度を今進めている行財政構造改革のなかで、見直すことになるとおもしろい巡り合わせだなと思っています。当時は何もかもが手探りの状態で、老人医療保険で診療を受ける率が高くなるほどに、市町村の負担が高くなるなど、解決しなければならなささまざまな

ケースを考えていたことなどが懐かしく思い出されます。年月がたち、老人医療の問題はある程度解消されてきたかと思われませんが、現行の兵庫県の老人保険制度は全国で一位と飛びぬけており、本当に困っている人を助けるための制度になっているかどうかなど、見極める目がこれからは大切ですね。

## ●県民の側にたった行政を

―これからは時代の流れをも見極めていかなければなりませんね。

二十一世紀を迎え時代は変革期を迎えています。右肩上がりの成長社会から、少子・高齢の成熟社会を迎えて、それに即した新しい兵庫をめざしていかなければなりません。行政組織においても、こうした状況に対応するため改革していく必要があります。そのために、兵庫県では「行財政構造改革」に取り組んでいます。今回の取り組みは、単に経費を削るというのではなく、複雑・多様化する県民ニーズに合致した質の高い行政サービスを機動的かつ柔軟に提供するためのものです。その一つとして、各地域の県民局長が地域の

人々と話し合い、どんな仕事をしたいかを決めるシステムにしてみたいです。また、各県民局が地域の窓口となり、より地域に密着した行政サービスを提供していきます。そうすると、県民局長はさしずめミニ知事といったところでしょうか。こうした改革の必要性を県民の皆さんに説明しながら、成熟社会にふさわしい行政システムの確立をめざして取り組んでまいります。

―阪神・淡路大震災も住民と行政を近づける契機になったかもしれませんね。

震災当時に、県民の皆さんの意見を復興計画に反映させるため、知事の提案で「県民会議」を実施し、私は「外国人復興県民会議」を担当いたしました。広く県民の皆さんの意見を伺うことができる貴重な機会だったと感じています。同じように二十一世紀に向けた新しい長期総合計画づくりにおいても、県民の皆さんに主体的に参加していただくため、地域ごとに「地域夢会議」を開催しています。県民の皆さんの英知を結集し、県民主役・地域主導の「兵庫の二十一世紀夢ビジョン」づくりに取り組んでいるところでです。

## ●癒しの旅で心にゆたさを

―旅行やゴルフがご趣味と伺いましたが、ゴルフはハンディ13ですから、そんなにうまくありませんよ(笑い)。旅行に出かける時間が最近あまりないのが残念ですね。以前は家内とあちらこちらに旅に出かけていました。若い時は千曲川でどぶろくを飲み寝そべったり、下関ではひれ酒を味わったりと旅先ではよく飲んでいましたね(笑い)。職員長を務めていた時には西国三十三カ所巡りに行き、職員の健康を祈りながらお寺をまわっていました。が、そうすることが自分にとっても慰めや癒しになり、リフレッシュできる旅になっていたように思います。

いま人々の価値観は物質的な豊かさよりも、精神的にゆたりのある心の豊かさへと変化しています。心の豊かさが実感できるライフスタイルづくりがこたえることが私たち行政の役目でしょう。ちなみに私自身が日々の生活の中で、精神的なゆとりを持つために心掛けていることは「忘れること、根に持たないこと」でしょうかね(笑い)。

(兵庫県副知事室にて)